

畜産クラスター事業 について

【事業内容】

畜産農家を始めとする地域の関係者が連携し、作業の外部化や省力化、規模拡大等により、体質強化を進めるため、地域で策定する畜産クラスター計画に位置づけられた中心的な経営体等が行う施設整備や機械導入などの競争力強化に向けた生産基盤の構築や生産性向上等に向けた取組の実証調査等を支援。

【支援メニュー】

- ・ 地域的な規模拡大や分業体制の構築等、重点に推進すべき取組（重点化メニュー）に取り組む場合、実証調査、施設整備、機械導入等を一体的に支援
- ・ 併せて、効果の早期発現、普及を図るため、支援を拡充

【交付率】

施設整備、機械導入事業については1/2以内

【重点化メニュー】

（肉用牛）

- ・ 地域的な規模拡大の推進・分業体制の構築
- ・ 受精卵移植技術の活用拡大（一産取り肥育）
- ・ ICTの活用推進
- ・ 繁殖肥育一貫体制の構築

（酪農）

- ・ 性判別精液等を活用した乳用後継牛の確保・育成の推進
- ・ 分業体制の構築・省力化の推進

平成26年度畜産競争力強化対策緊急整備事業実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
観音寺市	観音寺市	㈱J A香川県フードサービス	平成26年度

事業計画の概要

(課題)

養鶏産業は県内の畜産物総産出額の6割(185億円)を占める重要産業であり、そのうち7割弱を鶏卵が占めている。また、農家の高齢化等により飼養戸数は年々減少しており、ここ10年で半減しているものの、1戸当たりの飼養羽数は、ここ10年で倍増しているところである。今後も大規模化の流れは続くと見込まれる中で、鶏卵の洗卵、選別、包装等を行う株式会社J A香川県フードサービスにおいては、洗卵選別包装機の処理能力が不足しており、不足分については職員の残業で対応しているため、生産コストが高騰している。また、処理能力の不足は、生産者における増羽にも影響を与えており、このままでは生産者の望む規模拡大が行えない可能性もある。

コストの低減及び生産者における増羽・生産量の増加は、県内においても、全国的にも喫緊の課題であることから、処理能力の高い洗卵選別包装機を導入し、それらに取り組む。

(事業内容)

- ・株式会社香川県フードサービスが、生産者18農場からの鶏卵を受け入れ、洗卵、選別、包装等を行う中で、処理能力の高い洗卵選別包装機を導入することでコストの低減を図る。
- ・生産者においては、増羽を行い鶏卵の生産量の増加を図る。

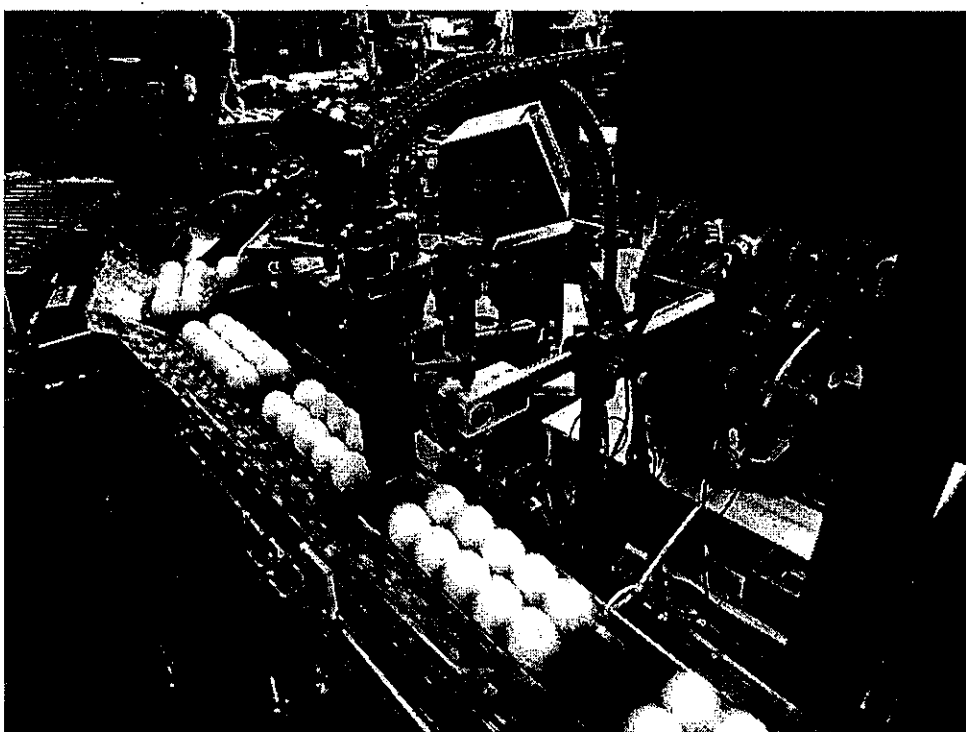
施設整備計画

※添付書類：写真

整備内容	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
洗卵選別包装機	6 (18農場)	75,000,000	37,500,000	洗卵選別包装機 1台

期待される効果の概要

項目	26年度 (現状値)	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	概要
処理コストの低減	600万円/年	500万円/年	400万円/年	時間外労務費 33%減
鶏卵生産量	9,000t/年	9,000t/年	9,400t/年	鶏卵生産実績 4.4%増



平成27年度畜産競争力強化対策整備事業実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
高松市	高松市	(有) 赤松牧場	平成27年度

事業計画の概要

(課題)

県内の酪農は畜産物産出額40億円の重要産業であり、生乳は、県民の健康保全の観点からも重要な品目である。しかしながら農家の高齢化等により飼養戸数は年々減少しており、ここ10年で半減、飼養頭数は3割減となっている。農家戸数の減少は今後も続く見込みであり、飼養頭数維持のためには、1戸当たりの飼養頭数の増加が絶対条件となる。このような中、全国的な子牛価格の高騰や飼料の高止まりもあり、経営が圧迫されていることから、酪農家が単独で牛舎の新設等に取り組むことは困難となっている。また、畜産においては堆肥の処理の円滑化が必須となっていることから、近隣の耕種農家との連携も課題の一つである。

(事業内容)

- ・有限会社赤松牧場が、搾乳牛の牛舎を新設し、飼養頭数の拡大を図るとともに、生乳の品質向上に取り組む。
- ・また、同牧場が6次産業として経営するジェラート店における販売額を増加させる。
- ・良質堆肥を生産し、近隣耕種農家へ供給する。

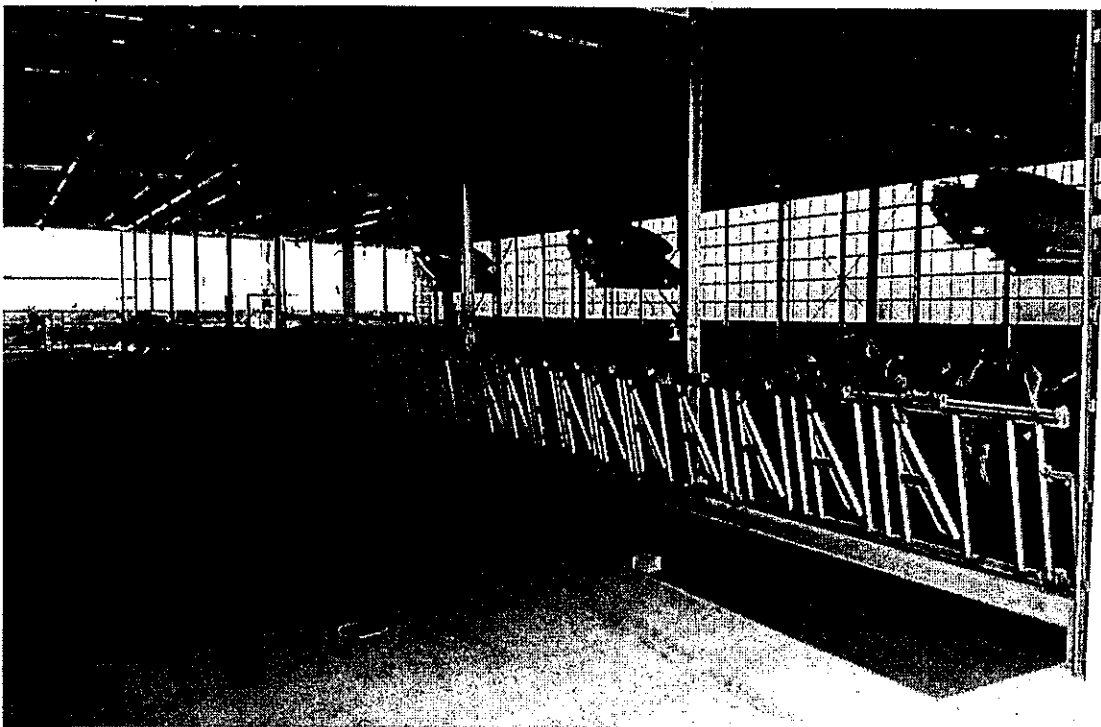
施設整備計画

※添付書類：写真

整備内容	施設面積	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
搾乳牛舎	3124 m ²	246,056,400	113,915,000	搾乳牛舎 1棟

期待される効果の概要

項目	26年度 (現状値)	32年度 (目標値)	概要
飼養頭数	120頭	250頭	飼養頭数の増加 100.8%増
品質向上(定期検査結果)	108回中100回	108回中105回	生乳の品質の指標である生乳中の体細胞数の検査の合格回数
ジェラート販売額	1,400万円/年	2,000万円/年	ジェラート店販売実績 42%増
良質堆肥の生産	107t/年	180t/年	良質堆肥の販売量 68%増



畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業

【60,981百万円】

対策のポイント

畜産クラスターの仕組みを活用した取組を進めることにより、我が国の畜産・酪農の収益力強化を進めます。

<背景/課題>

- ・TPPによる新たな国際環境の下で、畜産・酪農の体質強化を図るためには、省力化機械の導入等による生産コストの削減や品質向上など、収益力・生産基盤を強化することが重要となっています。
- ・このため、畜産クラスターの仕組みを活用して、地域の畜産関係者が有機的に連携・結集し、地域ぐるみで収益性を向上させる取組を加速化することが重要です。

政策目標

- 生乳の生産量 (745万 t (平成25年度) → 750万 t (平成37年度))
- 牛肉の生産量 (51万 t (平成25年度) → 52万 t (平成37年度))
- 豚肉の生産量 (131万 t (平成25年度) → 131万 t (平成37年度))
- 鶏卵の生産量 (252万 t (平成25年度) → 241万 t (平成37年度))

<主な内容>

畜産・酪農の収益力の強化を集中的に進めるため、以下の事業を支援します。
また、基金を造成し、複数年度の事業実施を可能とするなど弾力的な運用を行います。

1. 施設整備事業

畜産クラスター計画に位置付けられた中心的な経営体に対し、収益力強化や畜産環境問題への対応に必要な施設整備、家畜導入（対象を地域的な規模拡大の場合にも拡大）を支援します。

2. 機械導入事業

畜産クラスター計画に位置付けられた中心的な経営体に対し、施設整備との一体性も確保しつつ、収益力の強化等に必要な機械のリース導入を支援します。

3. 調査・実証・推進事業

収益力の強化に向けた新たな取組を行う畜産クラスター協議会に対し、その効果を実証するために必要な調査・分析を支援（複数のクラスター協議会が広域で連携する場合の支援を強化）します。

また、畜産クラスター事業の効果を一層高めるため、地域の連携をコーディネートする人材の育成を支援します。

補助率：基金管理団体へは定額（1、2の事業は1/2以内、3の事業は定額）
基金管理団体：民間団体
支援対象者：地域一体となって収益力向上を図る畜産クラスター計画に位置付けられた中心的な経営体（畜産農家、新規参入者、飼料生産組織等）

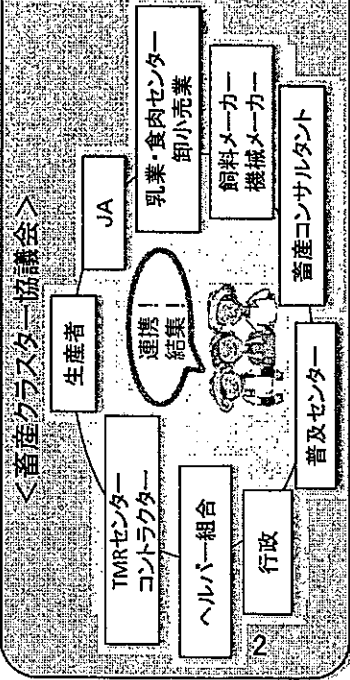
[お問い合わせ先：生産局畜産企画課（03-3501-1083）]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業

- 畜産クラスターの仕組みを活用して、地域の畜産関係者が有機的に連携・結集し、地域ぐるみで収益性を向上させる取組を加速化することが重要。
- このため、収益力強化や畜産環境問題への対応に必要な施設整備、家畜導入を支援。
- また、基金を民間団体に造成し、複数年度の事業実施を可能とするなど弾力的に運用。

畜産クラスター事業を基金化

複数年度の事業実施を可能とする
など弾力的に運用を行う



調査・実証・推進事業

検討会の開催、新たな取組に関する調査・実証、取組をコーディネートする人材の育成等を支援



実証成果を
全国的に普及

・補助率 定額

施設と機械が
一体的に整備可能となるよう
運用方法を見直し

機械導入事業

中心的経営体の収益力の強化等に
必要な機械のリース導入を支援

- ・補助率 1/2以内
- ・個別経営体も対象



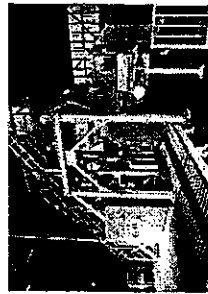
搾乳ロボット



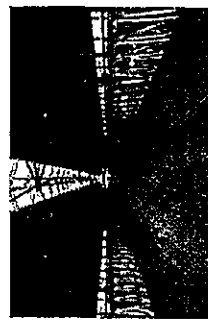
飼料収穫機

施設整備事業

中心的経営体の収益力の強化等に
必要な施設整備、家畜の導入
(対象を地域的な規模拡大(貸
付方式の施設整備)の場合にも
拡大)を支援



飼料調製施設



家畜飼養管理施設

(※公社等が整備し、中心的な経営体に貸し付ける場合も含む)

- ・補助率 1/2以内
- ・個別経営体も対象
法人経営、法人化
の計画を有して
いる家族経営

平成28年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（施設整備事業）の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
高松市 観音寺市 観音寺市	高松市牟礼町 観音寺市 観音寺市	山種易産業株式会社 高橋畜産株式会社 合田政光	平成28年度

事業計画の概要

（課題）

県内の肉用牛経営は産出額38億円の重要産業であり、近年では、県内ブランドである「オリーブ牛」がその品質について国内のみならず海外でも高く評価されている。ここ10年の状況を見ると農家の高齢化等により飼養戸数は4割減となっているが、飼養頭数については、農家の大規模化により大きな減少はない。しかしながら、今後も農家の減少は続く見込みであるとともに、全国的な子牛価格の高騰や飼料の高止まり、TPPの影響による海外産の安い牛肉との競合への不安等、経営状況は厳しくなることが懸念される。

これらに対抗するためにも、県は「オリーブ牛」の更なるブランド化・高付加価値化に尽力するとともに、生産者においては、1戸当たりの飼養頭数を増加することで、オリーブ牛の生産頭数を確保することが必要である。

（事業内容）

以下の計画通り、山種易産業株式会社が繁殖・育成牛舎、哺育牛舎を、高橋畜産株式会社が繁殖牛舎、合田政光農場が肥育牛舎を整備し、オリーブ牛生産頭数の増加を目指す。平成32年度には県内全域でオリーブ牛出荷頭数3,000頭を目標とする。

施設整備計画

※添付書類

整備内容	施設面積 (㎡)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
①繁殖・育成牛舎、哺育牛舎	①576㎡×3棟 ①684㎡×2棟 ①180㎡×3棟	①116,212,320	53,802,000	①山種易産業(株)：繁殖・育成牛舎、哺育牛舎、おがくず保管庫
②繁殖牛舎	②1,512㎡	②73,537,200	34,045,000	②高橋畜産(株)：繁殖牛舎
③肥育牛舎	③500㎡	③22,045,500	10,206,250	③合田政光：肥育牛舎

期待される効果の概要

項目	27年度 (現状値)	32年度 (目標値)	概要
繁殖雌牛の増頭	198頭	410頭	飼養頭数 107%増
オリーブ牛出荷頭数の増	310頭	504頭	出荷頭数 62%増

平成 28 年畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（施設整備事業）の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
綾川町 (綾歌郡)	綾川町 西分地区	有限会社 大林農場	平成 28 年度

事業計画の概要

(課題)

本県では、農業・農村基本計画において、消費者ニーズに即した魅力ある農産物の生産・流通・販売、による農業の成長産業化に向けて、マーケットインの発想による消費者ニーズに即した魅力ある農産物の生産・流通・販売の一体となった取組みを推進し、ブランド力の一層の強化を図り、攻める農業を展開している。

県内では、オリーブ牛の人気の高まりから、オリーブを活用した県産豚肉を期待する消費者サイドの声が高まり、平成 25 年度から、県内の生産者、豚肉流通業者及び研究機関が連携し取組を開始した。

平成 27 年 4 月、県内豚肉生産・流通・販売関係業者、県行政、畜産関係団体から成る「オリーブ豚振興会」を設立し、県内 3 農場が生産を開始し、同年 7 月から「オリーブ夢豚」「オリーブ豚」の販売が開始された。

この新たなブランド豚は、平成 27 年度 6,586 頭生産しているが、評価が高く需要に供給が追いついていない。特に、県内大手スーパーは 139 店全店で取扱いを要望しているが 17 店舗止まりである。また、県内外ホテルや百貨店も短期フェアだけでなく常時取扱いを要望しているが、こちらも対応できていない。

(事業内容)

この旺盛な需要の時期を逃さず増頭をすすめるため、平成 28 年度に(有)大林農場で肥育舎を整備し、新たに「オリーブ夢豚」の生産を開始し、平成 32 年度には 3,000 頭生産する。県内 4 農場で「オリーブ夢豚」「オリーブ豚」生産頭数を平成 27 年度の 6,586 頭に対し、32 年度には 16,000 頭とする。

施設整備計画

※計画図面を調整中

整備内容	施設面積 (㎡)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
オリーブ夢豚肥育豚舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 18m×8m×12 棟 ＝計 1,728 ㎡ ・ 資材置場 288 ㎡ 合計 2,016 ㎡ 	70,355,520	32,572,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハウス豚舎 (発酵床 80 頭飼育) 12 棟、資材置場 1 棟 ・ 自動給餌機、ファン、細霧装置等付帯

期待される効果の概要

項目	26 年度 (現状値)	27 年度 (実績値)	32 年度 (目標値)	概要
「オリーブ夢豚」「オリーブ豚」の生産増	0 頭	6,586 頭	16,000 頭	生産頭数を約 2.5 倍増
耕畜連携による堆肥供給農家戸数	260 戸	260 戸	320 戸	堆肥供給農家を約 20% 増

